

令和2年度 県立土浦第一高等学校 (全日制) 自己評価表

目指す学校像	豊かな人間性の涵養と人格の形成を図り、次代をリードする高い知性とたくましい心身を有し、社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す。 教職員の共通理解の下、生徒一人一人のより高いレベルでの進路実現を目指し、地域社会の期待に応える進路指導を実践する。				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
<p>高い「志」の実現をめざし、授業第一主義による質の高い授業や主体的学習態度の育成、生徒一人一人の進路実現への取り組みにより、難関大学や医学部等への合格者数のより一層の増加を目指す。</p> <p>多くの生徒が部活動や委員会活動等に積極的に参加したり、生徒自ら学校説明会を行うなど広報活動にも意欲的に取り組むことができた。</p> <p>文科省指定のSGH事業は、海外フィールドワーク等の課題研究活動や発表会の内容等において成果をあげた。引き続きSEG海外研修等を通じてグローバル人材の育成を目指す。</p> <p>過去最高の倍率を記録した4年前(H28 1.45倍)より志願倍率は下がっているが、昨年度は1.30倍であった。さらなる積極的な情報発信をすることにより、本校の魅力の的確に伝えていく継続的な取り組みが必要である。</p>	主体的学習態度の育成と質の高い授業の展開	①授業に対する意欲と理解を高め、自主的・積極的な学習態度を育成する。 ②自ら学ぶ意欲を高めるとともに、効果的な学習活動を支援する。 ③指導法の研究を通年で行い、授業改善、指導力向上を図りながら、生徒の能力を高める授業を展開する。	A		
	豊かな人間性の涵養	④基本的生活習慣の確立に努めるとともに、部活動や委員会活動等への積極的な参加を促し、豊かな人間性の涵養と社会性の養成に努める。 ⑤いじめを許さない心や、他者を思いやる心の育成によって、豊かな人間関係づくりを図る。 ⑥個別面談や教育相談を充実させ、生徒の悩みや課題の解決に向け支援する。	A		
	高い「志」実現に向けたキャリア教育の充実	⑦高い「志」を持ち、常に前向きに努力し続けることにより、自分の進路を自ら切り拓いていく態度を育成する。 ⑧生徒の自己理解を促し、高い目標設定と自己実現を目指す継続的な努力ができるよう、個別面談の充実を図る。 ⑨将来において、各界でのリーダーをめざすべく、個人の可能性を伸ばすことができるように支援する。 ⑩学びのプロセスを記述するキャリアパスポートの作成・活用を行う。	A		
	グローバル人材の育成	⑪グローバル・リサーチ・プロジェクト(GRP)を通して、課題研究などの探究活動を推進する。 ⑫世界に通用する人材を育成できるよう、課題解決能力やコミュニケーション能力、英語による発信力の向上を図る。	B		
	学校情報の積極的発信と地域との連携	⑬学校の情報を積極的に発信するために、学校ホームページや学校通信等を充実させ、本校の魅力を伝える機会を増やす。 ⑭地域とのコミュニケーションやふれあいを大切に、小中学校や町内会等と交流を図る。	A		
	附属中学校の開校	⑮附属中学校の開校に向けて附属中開設校内準備委員会を中心として滞りなく進める。	A		
	働き方改革の推進	⑯学習指導等の質の維持・向上を図りつつ、業務の効率化を進める取組を推進することで、職員の負担軽減、環境改善を図る。 ⑰在校時間の自己管理や休暇取得のしやすい環境づくり等を推進し、働き方の意識向上に努める。 ⑱衛生委員会等で超過勤務・ストレス等を把握し、課題の改善・解決に向けて取り組む。	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
教務部	より深く考える力を育てる授業を展開するための支援を充実させる。	授業時間の確保のため、本年も授業補填率100%を継続させ、日々の時間割を円滑に運営する。 ①② 学校行事等を効果的・計画的に実施することで、生徒が意欲的に授業に取り組む環境をつくる。 ①② 定期考査や実力考査、及び校内模試の問題検討会の実施を推進する。 ③ 授業の相互参観を推進し、授業改善、指導力向上の研修機会を増やす。 ③	A B A B	A	・校内考査の時期や回数について、委員会等を設けて検討したい。 ・ICT環境の充実や活用について、情報室や各学年などと連携を強化して、組織的に取り組みたい。 ・学校のホームページをさらに充実させるために、組織的に取り組みたい。 ・コロナ禍において、学校の伝統をいかにして継承させていくのかを、教職員が一丸となって知恵を出し合い、検討したい。
	次期教育課程と「新テスト」への対応を進める。	次期教育課程を踏まえ、生徒の能動的な学習活動の促進に向け、研究を進める。 ①②③ 次期学習指導要領や大学入学共通テストの対応に向けて、本校教育課程の検討を始める。 ②③ 医学コースや探究学習の推進を踏まえた令和3年度教育課程を作成する。 ①②③	A A A		
	広報活動の充実を通じ、教育活動の活性化を図る。	中学生に加え、小学生や地域社会に対しても本校をアピールする機会を推進する。 ⑬⑭ 本校の教育活動の様子を、ホームページなどを通して積極的に公開する。 ⑬⑭	A A		
	学習館の利用を促進する。	学習館の年間使用予定を調整し、その利用を効率的に行う。 ② 学年や校務分掌と連携し、学習活動等に活用しやすい環境を整える。 ①②	A A		
	学校の実態を踏まえた人権教育の推進を図る。	人権感覚や人権意識を育み、人権擁護の意識を高める人権教育の実践を支援する。 ④⑤ 教育活動全体を通して人権尊重の精神を養い、生徒に人権感覚や人権意識を育成するために必要な総合的資質・能力を高めることを目的とした職員研修を企画、実行する。 ④⑤⑥ HR活動、生徒会活動、生徒が企画・運営する学校行事等における民主的な活動を支援する。 ④	A A A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
渉外部	学校、家庭、地域社会との連携と協力体制の確立に努める。	各学年後援会の活性化と、連携・協力体制の充実に努める。 ⑬	A	A ・コロナ禍でのPTA総会等の実施方法を考える。 ・附属中学校と高校のPTA活動の連携を考える。
		各種PTA行事(後援会行事)への積極的な協力・参加を呼びかける。 ⑬⑭	B	
		PTA総会の出席者数の増加を図る。 ⑬	B	
	奨学制度の効果的活用を図る。	各種奨学金の情報提供に努め、生徒が有効活用できるようにする。 ⑥	A	
生徒指導	基本的生活習慣を確立させ、節度ある生活をしようとする態度を育成する。	挨拶の励行、制服の着こなし、校則の在り方等を学校全体で考え、規範意識の高揚に努める。 ④	A	A ・附属中開校に伴う、服装規定、部活動、SNSのあり方等に関する生徒指導内規及び諸規定の見直しが必要である。 ・地域との共存を意識したマナー指導が求められる。 ・新型コロナウイルスに対応した柔軟な行事運営及び部活動の実施の工夫が必要である。
		交通事故防止を目指し、交通ルールの遵守を徹底させる。 ④⑥	B	
		移動教室時の施錠や、貴重品袋の活用など、自己管理を徹底させる。 ④⑥	A	
		携帯電話・スマートフォンやインターネットの適切な利用を指導する。 ④⑤	B	
	生徒の実態をよく把握し、学校生活上の問題の発見・解決に努める。	職員・保護者・PTAが連携して、登下校時の見守り運動、校内での生活指導等を行う。 ⑭	A	
		学年・部活動・委員会・他の分掌との連携を密にし、生徒の実態把握に努める。 ⑤⑥	A	
		アンケート調査・面談等を実施し、いじめをはじめとする学校生活上の問題を早期に発見、解消すべく学校が一元となって協力して取り組む。 ⑤⑥	A	
生徒の自発的な活動を支援する。	生徒の発想や創意を活かすべく、生徒自らが企画・運営する学校行事への支援を工夫する。 ④⑧⑨⑬	A		
	運動部・文化部等の積極的・自主的活動を奨励するとともに、学習と両立を支援する。 ④⑧⑨⑬	B		
	キャリアパスポートの作成及び積極的な活用を行う。 ⑩	B		
教育相談室	教育相談体制を確立する。	教育相談室の広報に努めるとともに、生徒や保護者が相談しやすい環境や体制を整える。 ⑥⑬	A	A ・ホームページ等も活用し、相談室の広報に努める。 ・生徒の支援に生かすべく研修を積む。
		各学年や各校務分掌と連携し、学校への不適応が見られる生徒の支援にあたる。 ⑤⑧	A	
		教員のスキルアップを図るため、スクールカウンセラーを活用した研修会を学年ごとに開く。 ⑥	B	
保健厚生部	安全で衛生的な生活環境を整備する。	清掃計画を作成し、生活環境が衛生的に保たれるよう分担区清掃を責任もってをあたらせる。 ④⑨	A	A ・環境美化においては、各分担区域での清掃指導の徹底がなされた。継続していく。 ・コロナ禍における講座のあり方。実施形態への配慮。
		校内の環境を安全・清潔に保つために定期的に安全点検を行い安心して生活できる環境を整える。 ⑨⑩	A	
	生徒の健康管理を支援する。	周辺住民も参加した避難訓練を実施し、地域と連携した防災力の向上に努める。 ⑬⑭	A	
		検診機関等が行う活動の準備、実施、事後措置に対し協力、指導する。 ⑥	A	
進路指導部	学習指導を支援する。	自他の生命尊重を基盤とした健全な倫理観を育み、将来の実りある自己実現に向け、性教育に関する保健指導を実施する。 ⑤⑥	A	A ・高い進路希望の実現を目指す生徒一人一人に対し、質の高い情報提供と不足分の資料の補充を行う。 ・入試問題等の図書を充実させる。 ・今までの形態での各種分析会が中止になっており、それに変わる研究会の案内・報告等を行っていく。
		効果的な個別指導を行うため、学年と共同で生徒の家庭学習実態を把握し担任を支援する。 ①②③	A	
	生徒が志高く、自らの進路希望を実現できるようにする。	生徒の進路希望に即した授業や考査のレベルを維持するため、教科担当者が外部の研究会に積極的に参加するように促す。また教科内の作問などの検討を促す。 ③	A	
		キャリアパスポートの積極的な活用のために、将来の生き方や生活、進路や職業について考える学年行事の支援を行う。 ⑦⑧⑨⑩	A	
		生徒が自分の将来をデザインするための資料や図書の充実に努める。 ⑦⑧⑩	B	
	適切な進路情報の提供に努め、生徒が自らの将来をデザインできるようにする。	進路情報交換会を開き、課題の発見とその解決に努め、教職員集団として共通理解を持った進路指導ができるようにする。そのため、学年との連携を密にする。 ②③	A	
		生徒が志望校を考える資料として、進学要覧・合格体験記を作成し、生徒に配布する。 ⑦⑧⑩	A	
学年後援会総会、7・12月の保護者面談の際に、学年に応じた適切な進路情報を提供する。 ⑦⑨		A		
図書視聴覚部	授業の展開に対応した資料を充実させる。	必要に応じて進路通信を発行したり、外部からの資料を配付し、生徒と保護者が進路について共通の認識を持てるように支援する。 ⑦⑨	B	A ・情報発信や展示を工夫し、生徒の読書意欲を喚起する。 ・未登録図書の登録作業を継続する。 ・蔵書面・設備面において、附属中の開校に対応する。 ・図書館・視聴覚室について、授業や自学の場としての整備を進める。
		各教科を対象に随時購入希望図書の調査をし、蔵書の充実に努める。 ①②	A	
	読書・作品鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	蔵書の効率的利用のため、蔵書管理のコンピュータ化を進める。 ②	A	
	授業及び自主学習の場として、利便性・快適性を高める。	来館した生徒の読書意欲を喚起するための情報発信や図書の配置の工夫を継続して行う。 ②⑦⑨	B	
		図書館・視聴覚室の美化に努め、利用マナーの遵守について指導する。 ②④	A	
情報室	情報教育の環境を整備する。	課外授業及び視聴覚教材を用いた授業の場として視聴覚室を開放する。 ①②	A	
	情報モラルに関する意識を高める。	生徒の自主学習を支援する場として、弾力的に図書館を開館する。 ①②	A	
		事務室・教科・学年と連携し、PC環境の整備に取り組む。情報セキュリティやウイルス対策等に対する意識を高める。突発的に起きるトラブル等に対しても対応出来るような用意をしておく。 ②	A	
	授業などで情報モラル教育を推進するための資料の提供を行う。現在の情報技術を取り巻く社会環境についての具体的事例やその対処法等について指導する。 ①②④	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
探究学習推進室	課題探究活動を推進する。	課題探究活動を行うにあたり、大学教員の講義、留学生ワークショップ、海外大学との連携等を通じて、生徒の興味・探究心を喚起し自ら考えさせる態度を育成する。②③⑦⑧⑨⑩⑪	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題学習をさらに深化させ、各自の取り組みを向上させる。 本校の特色を生かした探究学習推進のための新たな事業を構築し、精力的に取り組む。
	人的ネットワークの構築を推進する。	起業教育プログラム、海外高校との交流、海外フィールドワーク等を通じて、世界に目を向け、将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築させる態度を育成する。②③⑦⑧⑨⑩⑪	E		
	幅広い視野を養う活動を推進する。	文化講演会、企業・研究所訪問、OBOGガイダンス、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野を持った生徒を育成する。②③⑦⑧⑨⑩⑪	B		
	グローバル人材の育成を推進する。	学校行事や各種委員会活動等を通じ、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながらグローバル社会に貢献することができる生徒を育成する。②③⑦⑧⑨⑩⑪	B		
旧本館学習館統括室	自習場所として活用する。	各学年、特に第3学年と連携し、自習の場所として相応しい環境を整える。②	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 旧本館・学習館が生徒の学習活動等に安全・快適に利用できるような環境を整える。活用委員会と連携し、コロナ収束後、一般公開等を速やかに再開する。
	各種行事に活用する。	学校・学年行事等による使用予定を把握調整し、学習館の利用を効率的に行う。②④	A		
	旧本館の活用を図る。	旧本館活用委員会と連携し、平日の学習や特別活動等の利用について検討し、環境を整える。②④	A		
		学校休業日における地域との交流等のための利用について、旧本館活用委員会と検討する。⑭	A		
附属中開設校内準備委員会	学校概要の検討・決定	学校説明会等において教育活動の理念や方針が適切に説明できるよう、学校概要の検討・決定について見直しを持って進行管理する。⑮	A	A	<ul style="list-style-type: none"> めざす人物像を育成する各種教育活動のねらいを職員に理解させ、計画的に実践すること。 一人一人の生徒の特性に応じた柔軟な教育支援体制の整備。
	開設準備委員会の運営	県教委との連絡調整を図りながら、開設準備委員会を計画的に運営する。⑮	A		
	校内WGの運営	中学校開設にあたり、教育課程・教科書・生徒指導・部活動・PTA等の校内WGを開設し、中学校運営体制を整備する。⑮	B		
	校内環境整備の管理	中学校開設にあたり、校舎等の修繕・整備についての進捗状況を適宜管理し、助言する。⑮	B		
	入学者選抜の運営・管理	県教委との連絡調整を図りながら、入学者選抜の事務処理を計画的に運営・実施する。⑮	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
第1学年	授業中心の主体的な学習スタイルを確立し、自己実現に向けて幅広い知識と教養を身に付け、また活用できるようにする。	挨拶、容儀、時間管理など日々の生活の中で高いレベルで自らを律し、行動する力を養う。④⑤⑦	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 自分だけでなく、自分たちの属する集団をも自ら律し、自分も仲間たちも向上する行動が起こせるように成長させる。 上級生として、学校行事や部活動の中核であるという自覚を持ち、その中で自分の役割を確立し、周囲と協調して1つのことを成し遂げる中でリーダーシップやフォロアシップを図れる生徒を育む。
		全ての教科・科目において生徒を主体的に参加させる授業を展開し、自ら取り組み考える姿勢を培うとともに、知見と視野を広げること。また、それを活用する場面をもうける。①②③⑨⑩	B		
		習慣と反復の重要性を認識させ、安定した生活習慣と復習を中心とした毎日の継続的な自学の習慣を確立させる。①②	B		
	高い目標を設定し、それに向けて自らを律し努力する姿勢を養う。また、結果を受け入れ次に生かせる学びをさせる。	企業訪問やOB・OGガイダンスなどを通じ、広く社会に目を向けさせ、将来に向けて高い目標設定をできるように喚起する。また、外に向けた目を内側に向け得られたことを消化する。⑦⑧⑨⑩	E		
		ホームルームや面談を通じて自らの課題を意識させ、目標達成に向けた今後の見通しを立てさせる。④⑤⑥	A		
	部活動・委員会活動や学校行事を通して、高いコミュニケーション能力と対応する力を育成する。	委員会や部・同好会の活動に積極的に参加させ、集団内でのリーダーシップを育成する。⑤⑦⑨	A		
		生徒間の教え合いを活発化させ、知の伝達を「ネットワーク型」にする。特に、成績上位者に教える意義をしっかりと伝え、情報発信者として機能させながら指導的な立場も学ばせる。①②⑤⑧	D		
	探究学習を通じ、探究する姿勢を養うとともに、情報発信力・発表表現力を育む。⑨⑩⑪	B			
第2学年	教養主義を掲げ、自立探求型学習の深化を図り、高い目標へ継続的に取り組む。	学年行事を通して、自分の進路適性を見つめ、高い目標設定ができるよう働きかける。⑦⑧⑨	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標を明確化する時期に進路学習への大幅な制限が生じ難しい1年であったが、臨機応変な対応で可能な限りの補完はできた。ただ、意識付けの不徹底からか、平均学習時間には課題が残った。啓発活動を続け、生徒個々の自覚を促していきたい。
		授業中心主義、多科目主義を堅持し、平日3時間休日5時間以上の家庭学習を継続させる。①②③	C		
	学習活動や行事において、生徒間のネットワークの活用を図る。⑪⑫	A			
	諸行事や課外活動に積極的に参加し、人間性とリーダーとしての資質を育む。	部活動・各種委員会活動・三大行事に全力で取り組ませ、リーダーシップを育成する。④⑨	B		
		自ら考え、自ら行動を起こす自立した生徒を育てる。②⑨	B		
		他者・集団の利益を考えさせ、生徒の責任感や客観性を育成する。⑤⑨	A		
多様な価値観を積極的に取り入れ、自己の成長へとつなげる	別クラス・団体に所属する生徒間の繋がりを作り、生徒間の交流の活性化を図る。④⑤⑥	B			
	担任面談や学年担当者との関わりを通して、目標への挑戦を啓発する。⑥⑦⑧	A			
	スマホやSNSに依存しない繋がりを促し、コミュニケーション能力を育てる。②⑤	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
第3学年	高い目標を掲げ、実現のための生活を徹底する。	面談を通して、自分の進路適性を見つめ、目標実現のための努力を継続する態度と意欲を涵養する。また、それらを通して高い志を持つ生徒を育てる。②⑥⑦⑧	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、一高祭を始め多くの学校行事が中止となる中、生徒の達成感を体得させることが難しかった。それでも休校期間や再開後の授業を有効に活用しながら生徒は主体的に学習に取り組み、学力を向上させてきた。 ・一方で、学力格差が広がった感があり、将来的なオンライン授業の活用など今後の学校教育のあり方について考えさせられる1年であった。
		集団内でのけじめと社会的なモラルを意識させ、自らを律する能力を育てる。自分の資質を社会に貢献させる方法を探り、共同体における存在意義を確立する。④⑤⑨⑫	A	
	部活動、委員会活動で完全燃焼し、高い充実感を持って受験に切り替える。	部活動、一高祭といった学校行事にに全力で取り組み、学校生活に減り張りを付けさせる。⑦⑧⑨	B	
		転換期に進路講演会、課外（東大研、医学研）を実施し、受験にしっかりと向き合わせる。②⑦⑧	A	
	授業第一主義を貫き、学校中心の学習活動で希望の進路実現を図る。	「授業は地元難関大レベル、課外は最難関大レベル」を徹底し、学校内の指導だけでも大学受験が完結できる学習環境を提供する。①②③	A	
	生徒間のネットワークを、共に教え合う・啓発し合う関係に昇華し、受験に団体で臨む。	授業、課外を通して、互いに教えあう場面を誘発する学習指導を行う。①②③	A	
	課外（東大研・医学研）を通して、クラスの枠を越えた生徒交流を図り、互いに啓発しあう関係を育む。②⑤⑨	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語	基礎学力の確かな定着を図る。	授業計画を生徒と教員で共有し、主体的な予習・復習の習慣をつける。①②	A	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して読解力、記述力を伸ばす授業を展開するとともに、変更された入試に求められる言語運用能力と柔軟な思考力の涵養を目指す。また、教員同士の情報交換や協議を積極的に行い、指導技術の向上を目指す。
		小テストへの取り組み等を通して言葉の特徴やきまり及び語彙への関心を高める。①②	A	
	探究型の学習スタイルを目指し、自ら学ぶ力の育成を図る。	多様なテキストに触れ、情報の取り扱いに関する知識及び技能を高める。①②⑨	A	
		幅広く古典に親しみ、伝統的な言語文化に対する理解を深め、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持つ。①②⑨	A	
	授業デザイン・評価・指導方法を共有する。	読書及び教科横断的な協同学習や表現活動を授業に取り入れることで、言語運用能力を総合的に伸ばす。②⑤⑫	A	
		生徒のニーズに応える特別講座や、学力不振の生徒に補講を行い、幅広い層の学力の向上を図る。①②	A	
地歴	世界史の学習を通して、国際社会における日本人のあり方を学び、社会に貢献できる生徒の育成を図る。	中学校との系統性を考慮したうえで、考查や模擬試験等の分析結果を活かして授業をデザインし、効果的な単元を構築する。②③⑮	A	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の動向を踏まえながら、日本と世界についての興味・関心を高め、理解を深めさせるような授業を心がける。 ・思考力、判断力、表現力の涵養を図るため、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を行う。また、史料・資料を活用する能力の養成を図る。 ・新学習指導要領の導入に向けた準備を進める。
		単元ごとの授業内容と考查問題について協議を行い、的確に生徒の学力を評価する。③	B	
	我が国の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察させるとともに歴史を追究する資質を養い、歴史的思考力を培う。	世界史の通史だけでなく、テーマ史的な観点からも歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な捉え方を身に付けさせる。①②	A	
		世界各地の文化とその成り立ちを学ぶことにより、我々と異なる文化や考え方を理解・尊重する態度を育成する。①②	B	
	現代世界で発生する種々の事象に対して、自ら考える姿勢を養うとともに地理的な見方・考え方の育成を図る。	世界史の基礎的な知識を身に付け、それをもとに自ら考える力を育成し、表現する力を養成する。①②③	A	
		各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点で考察させる。①②③	A	
公民	国際人としての自覚を養い、倫理の諸問題に着目しながら課題解決できる姿勢と能力を養う。	地域社会の歴史と文化を扱うことにより、郷土に対する関心を高め、愛する心を育てる。①②③	B	
		適切な主題を設定し、自らの考えを論述する活動を通じて、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。①②	A	
公民	政治・経済・国際関係などについて客観的に理解し、関心を持って考察する態度を育成する。	系統的な学習を通して基本的な知識の定着を図り、地誌的な学習を通して興味・関心を持って具体的に現代世界を考察する態度を養う。②③	A	
		授業進度の適切な時期を考慮して、調査や作業学習を体験することで地理的な技能を養う。②③	B	
	3学年では大学入試に対応した論理的な思考力や表現力を育成する。①②③	A		
公民	国際人としての自覚を養い、倫理の諸問題に着目しながら課題解決できる姿勢と能力を養う。	倫理で必要とされる基礎的な知識を身に付け、それをもとに諸問題に対して自ら考える態度を育成する。①②③	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時事的な話題を常に取り上げ、興味・関心を高める工夫を心がける。 ・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を行う。 ・新学習指導要領の導入に向けた準備を進める。
		青年期における自己形成と、人間としての在り方・生き方についての理解と思索を深めさせる。②④⑤	A	
公民	政治・経済・国際関係などについて客観的に理解し、関心を持って考察する態度を育成する。	民主主義の本質に関する理解を深め、現代社会における政治・経済・国際関係などについて理解させ、基礎的な知識を身に付けさせるとともに、それらについて主体的に捉え、考えさせる。①②③	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
数学	生徒の発達段階に応じた質の高い授業を展開する。	綿密な授業計画表を作成し、進捗計画表を生徒に配布することで生徒の学習計画を促すとともに、それぞれの学年の方策に従って基礎学力の定着を図る。①②③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業を中心とした学習計画や予習復習の学習習慣を更に徹底させ、考査で力を付けていく指導を継続する。 新学習指導要領のもとでの指導法の研究を進める。 様々な学力層が混在しているので、学力層に合わせた指導を展開する。 大学入学共通テストの研究をさらに進め、適切な対策を実施する。
		授業重視を徹底させる。日常の自己学習を徹底させる。①④	A		
		授業中心の学習計画を立てさせ、「予習→授業→復習」の学習習慣を確立させる。①②③④	B		
		科目担当者の連携を密にし、授業の進捗や定着度合いの確認・分析を行い、学習指導に生かす。①②	A		
		基本事項の理解を徹底させると共に、問題演習を十分に行う。①	A		
		授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。①②	A		
		3学年の生徒には、基本事項を整理し、発展的な応用力の養成と定着に努め、難関大学に合格できるための思考力を養う。②⑨	B		
進学目標別の対策を研究するためのガイダンスや課外を実施する。②③⑨	A				
理科	自然に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。	授業展開の中で、生徒の興味・探究心を喚起する実験・観察教材の研究と工夫に努め、発展的な内容や話題について提供する。①②③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度に応じた指導方法をさらに改善し、生徒の学力の向上に努める。 新学習指導要領や大学入学共通テストへの指導方法について研究し、観察実験を通して、求められる「思考力・判断力・表現力」の向上に向けて教科指導の充実を図る。 ICTを活用した授業を行い、興味関心を持たせる。
		単元毎の観察・実験を行い、観察・実験に積極的に取り組み、現象を見る目や探究心を養う。また、その内容についてのレポートの作成や発表を通して、学力の定着を図るとともに科学的な思考力を養う。外部講師による「科学実験講座」を実施し、発展的な内容に触れさせることで科学的探求心を育てる。①②	B		
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。①②	A			
	基礎学力を充実させ、3年においては、特に生徒の進路を考慮して応用力の養成を図る。	A			
保健体育	運動や学習を通して、協調性を高め、仲間との関わりの中でそれぞれの力を伸ばす意識を持たせるように指導する。	集団種目を多く取り入れることにより、仲間と協力・連携して活動する態度や、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする態度を育成する。①②③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○体育 <ul style="list-style-type: none"> 集団や種目の特性に応じて自己やチームの課題を解決しながらゲームを展開する力を高める指導の工夫。自主・協同・責任を果たすリーダーシップの涵養。スモールステップで成功体験を積むことのできる指導方法の工夫研究。思考力・対話力を高めるコミュニケーションの場の工夫。事故を未然に防ぐために、生徒の危険予測能力の向上、危険箇所の早期改善、安全な体育施設の利用の促進。 ○保健 <ul style="list-style-type: none"> 深い対話的学びが実践できる課題学習の学習方法や発表方法の研究。探求学習等、他教科との連携。
		集団の特性に応じた、ゲームの工夫や技能を高める実践的能力や態度を育成する。⑦⑨	A		
		準備や片付けを率先して行う態度を養い、集団や社会に畜する精神を育てる。⑦⑨	A		
		保健においては、自分の身体への理解を深めて命の大切さに気づき、自己愛や他者への思いやりの心が育つように指導する。①②③⑤⑨	A		
	運動の実践を通して、体力の向上、困難なことにも立ち向かう態度や能力を育成する。	克服的な種目（水泳・長距離走）を実施することで、チャレンジ精神を養い、体力の向上や達成感を味わわせる。①②③	A		
		苦手なことにも取り組みやすいように、工夫した指導や声かけを行い、関心・意欲・態度の評価を重視する。①②③	A		
		個人スキル向上のために、ドリルや発問の仕方を工夫し、発展したゲームが展開できる力をつける指導を行う。①②	A		
	体育的行事を推進し、主体性や計画・実践する能力を高め、人間性を涵養する指導を行う。	体力テストを通して自己の体力を客観的に評価し、日頃から健康への意識を高め、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成する。④⑦	B		
		一高オリンピックを生徒が主体的・計画的に行えるよう支援し、望ましい人間関係の形成や集団への所属意識や連帯感を深め、よりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。④⑨	B		
		運動部員が、クラスや学校行事においてもリーダーシップを発揮できるように、指導育成する。④⑨	B		
	運動・スポーツ活動における健康・安全指導を充実させる。	活動中の健康観察を徹底し、気付いたことがあれば積極的に声かけをする。①②	A		
		周囲の者の健康状態を観察したり、危険を察知する能力や態度を育成する。①②	A		
健康、安全に関する自己管理能力を育成する。①②		A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
芸術	多様な表現活動を通して芸術表現・鑑賞の楽しさを味わい、生涯に渡って芸術を愛好する豊かな心情を育てる。	生徒一人一人の個性や感性に沿った個別指導を充実させる。 ①②⑧	A	A ・中学校における基礎的な学習内容との連携を考慮した、発展的なカリキュラムを再編成することが必要である。
		生徒の実態に沿った課題選択をし、教材や授業内容及び指導方法を創意工夫する。 ②③	A	
		生徒自らが工夫した表現活動や相互鑑賞などにより、芸術の諸能力の向上を図る。 ①②	A	
		相互鑑賞等とおして、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己の制作意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力を向上させる。 ①②	A	
家庭	生活課題を主体的に解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実に向上を図る力と実践的な態度	各分野の授業において、生涯を見通して生活を設計し、創造する力を引き出す授業や実習を研究し、発展的な知識・内容についても提供する。 ①②③	A	A ・コロナ禍での実習の在り方を考え、実践できるよう取り組む。 ・ICTを利用した授業を考える。
		授業において学習した知識や技術を活かし、家庭生活における課題を主体的に解決する態度を育成する。 ①②⑨	A	
		技術の習得については、生徒一人一人の能力にあった個別指導を充実させる。 ②⑥	A	
情報	課題設定や課題解決のための思考力を養う。	課題探究活動を行うにあたり、ポストSGHを勘案しながら、大学教員の講義、留学生ワークショップ、海外大学との連携等を通じて、生徒の興味・探究心を喚起し、自ら考えさせる態度を育成する。 ②⑥⑨	A	A ・課題研究の活動は、単に研究成果をまとめればよいというものだけではない。研究という知的営みを通し思考力などの資質能力を向上させ、失敗したことをも学びにする貪欲さを養うことがさらに求められる。この高次の目標達成が今後の課題になる。 ・研究したことを整理・まとめる能力の向上にも今後は課題としていきたい。
	人的ネットワークを構築する力を養う。	起業教育プログラム、海外高校との交流、海外フィールドワーク等を通じて、世界に目を向け、将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築させる態度を育成する。 ②④⑥⑨	A	
	英語力とICT技術を養う。	将来グローバル社会で活躍するために必要となる国内外の社会・文化の諸問題の理解力を、外国人教師の授業等を通じて育成する。 ①②⑥⑨	A	
	幅広い視野を養う。	ワープロ、表計算ソフト、パワーポイントを活用した課題研究と各種発表会を通して、情報の伝達力を育成する。 ①②	A	
	コミュニケーション能力を養う。	文化講演会、企業・研究所訪問、OBOGガイダンス、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野を持った生徒を育成する。 ②④⑥⑨	A	
英語	英語科全体の目標 分かりやすい授業を展開し、実践的コミュニケーション能力を養う。	全体		A ・4技能のバランスを重視して、英語運用力の統合的かつ総合的な指導を行う。また新テスト(リスニング100点)に対応した指導法の構築に取り組む。 ・1年 4技能の調和のとれた伸長を図り、自律した学習者への基礎を養う。 ・2年 1年生で培った基礎力を更に伸ばすとともに、会話やエッセイなどの表現力の育成に重きを置く。 ・3年 一斉授業と個別指導を組み合わせ、高度な英語を読み、自らの考えを正確に表現できるようになる。
		・教材研究を深めて、生徒の知的好奇心を刺激し、充実感のある、分かりやすい授業を展開する。 ①②	A	
		・英語を通し、将来国際社会で活躍する日本人として必要となる、国内外の文化・社会の諸側面についての理解を深められるように題材の扱い方を工夫する。 ①②	A	
	・読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく伸長できるような授業を展開する。 ①②③	A		
	第1学年の目標 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の確かな基礎力を養う。	第1学年の具体的方策		
		・授業を中心に予習復習の徹底を図り、自立した学習の援助をする。 ①②	A	
		・語彙力を向上させるテストを学年を通して実施する。 ①②	A	
		・英語に親しめるサイドリーダーを選択・活用して、読解力の基礎の育成を図る。 ①②③	A	
		・辞書指導の充実等によって、自立した学習力の育成を図る。 ①②	A	
	・授業内にペアワークを頻繁に取り入れ、実践的コミュニケーション能力の向上を図る。 ①	A		
	第2学年の目標 第1学年で培った英語の基礎力をさらに伸長させ、確かな英語力を養う。	第2学年の具体的方策		
		・第1学年で培った生徒の英語力を踏まえて、個々の生徒の英語運用能力を伸ばす授業を展開する。 ②③	A	
		・表現力を高めるための構文確認小テストを継続実施する。 ②	A	
・文法に正確で論理的英文が書ける力を養えるような授業を展開する。 ①		A		
・英語による自己表現を促すことで、世界的な視野を持つ人材の育成を図る。 ①②		A		
・知的好奇心を刺激するようなサイドリーダーを選択・活用して、読解力の向上を図る。 ①②	A			
第3学年の目標 生徒の進路希望実現のために、難関大学入試に対応できる確かな実践力を養う。	第3学年の具体的方策			
	・第1、2学年で培った英語力を踏まえ、ゆるぎない英語力を完成させる。 ①②③	A		
	・大学入試問題を研究し、生徒の進路希望に即した考查を実施する。 ①②③	A		
	・国公立大学個別学力試験に対応できるような英文要約や英作文等の個別指導を充実させる。 ①③	A		
・センター試験で各生徒の進路希望実現に必要な成果が出るように、直前対策を実施する。 ②	A			

5段階評価 A：目標が十分達成された B：ある程度の成果が見られた C：取り組んだ D：取り組んだが課題を残した E：取り組まなかった

